

行慶寺報

平成十六年春号

鎌倉大本山光明寺参拝

世話人代表 新井健治

平成十五年十二月十一日
(木) 総代世話人研修会として、鎌倉の大本山光明寺に参拝いたしました。

光明寺は山号を天照山といひ、開山堂を始め、各御堂の建設改修等、六年に渡る諸事業を終えたところで



当日はあいにく冷たい雨の一日でしたが、広大な山内は七五〇年の歴史の中、檜の香りも新しい開山堂は既に風格を備え、圧倒されました。山門に登ると釈迦三尊と四天王が祀られており、由比ヶ浜、江ノ島、晴れていけば富士山も眺めることが出来るとのことでした(残念)。

この日はご先代住職のご命日でもあり、法蓮社昌雄大和尚の追善とあわせて、行慶寺檀信徒先亡諸精霊の追善の回向をお願いしました。



た。はからずも御法主の宮林昭彦台下のご親修を賜ることが出来ました。法要後には対面の間で、開山堂建設への浄財のお礼のお言葉を私達檀信徒にいただきました。

光明寺を後にして午後は高徳寺の鎌倉大仏と長谷観音を参拝いたしました。寒さ厳しい雨の一日でしたが、歴史と共にあり「新しき」を加えながら息づく光明寺を参拝して心清められた研修の日となりました。

ひとくちメモ

数珠(じゆず)

念珠(ねんじゆ)ともいい、菩提樹の実や水晶などの小玉をひもでつないだもの。玉は煩惱の数を表す108が基本。浄土宗では二連数珠を用いる。本来は念仏の回数を数えるためといわれる。

増上寺団体参拝

参加者募集のお知らせ

お知らせ

今回は浄土宗の大本山である芝の増上寺に、檀信徒の皆様大勢で参拝したいと思います。今年十一月十六日(火)日帰りで予定しています。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。詳細は後日ご案内させていただきます。



般若湯はよい酒

総代 萩原 康右(酒類業)



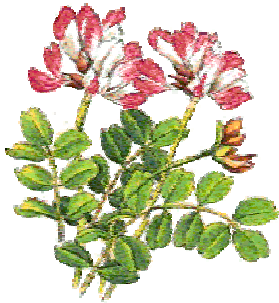
私達の生活のなかで、色々な場に登場する飲み物はお酒であります。それ故によい面、悪い面でその性格は正反対になってしまいます。お寺で云う般若湯は善悪どちらに属するのでしょうか。

般若の意味は能面の般若(角があり、鋭い金目で、牙のある鬼)を意味すると私達は思うのですが、仏教ではサンスクリット語の『パンニヤ』の音韻を当てたもので、意味は真相、真如を達観する智慧ということになります。

般若=真実の智慧であるならば、般若湯が身体や社会や心情を害するものであってはいけません。良薬となり、飲んで食事を楽しくし、喜びや家族や友人の和を結び人間関係を円滑にする適量の酒が般若湯であ

ります。よく落語に登場する生臭坊主のごまかし酒は鬼のハンニヤ湯であります。飲酒が健康を害し、他人に迷惑や暴力をふるい、未成年の非行を助長する時の酒は鬼のハンニヤ湯であります。怖い酒です。落語ではのんびいで解釈を間違えた僧が後者の酒を般若湯にしてしまったのであります。

智慧の泉、米の精、麦の精、葡萄酒の精など百薬の長となる健康酒、祝杯、乾杯、歓杯、慶杯等の酒はよい酒=般若(若さを搬ぶ)湯であります。美味しい、よい酒をのみましよう。




早くも七回忌

住職

十二月お遊戯会その日、危篤の知らせを受けたのは六年前十二月十一日でした。先代住職小俣昌雄上人の七回忌を迎えます。法蓮社正僧正性誓上人説阿海庵昌雄大和尚十月のお十夜法要に併修し皆様にもお焼香頂こうと願っております。合掌



《解説》
般若(はんニヤ)とは、知恵という意味です。僧侶には不飲酒戒(ふおんじゆかい)という戒律があるためお酒を飲むことははばかられました。しかし、お酒は少量であれば百薬の長とも言われるので、「知恵の水」=「般若湯」という隠語として使われたということです。



これからの行事予定

- 平成十六年
- 七月十三丁十五日(火)木 孟蘭盆会法要
- 九月二十三日(木) 秋季彼岸会中日法要
- 十月十七日(日) 十夜法要

皆様お揃いでご参詣下さい